

し せき おか やま じょう せき ほん まる した の だん 史 跡 岡 山 城 跡 本 丸 下 の 段

発掘調査現地説明会 資料

岡山市教育委員会

日時：平成22年1月30日（土）10:00～12:00

場所：岡山市北区丸の内2丁目地内（史跡岡山城跡）

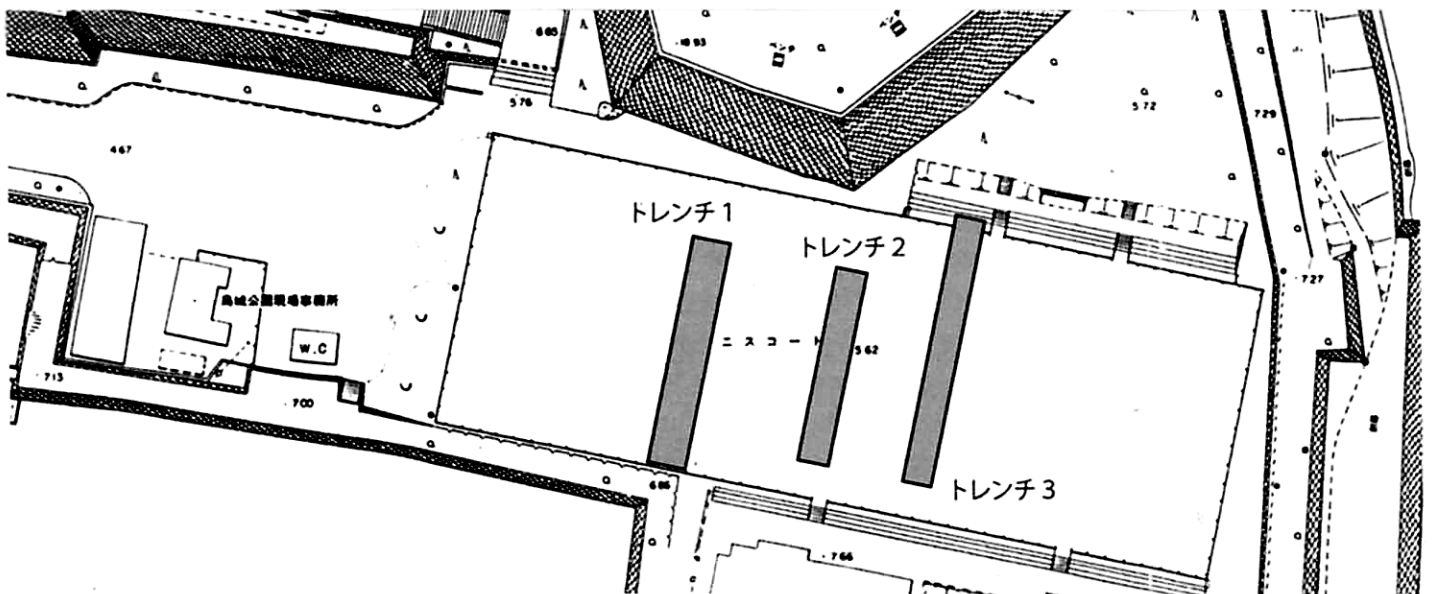
はじめに

岡山市教育委員会では史跡岡山城跡の保存整備事業の一つとして、平成21年10月から本丸下の段（テニスコート跡地）の発掘調査を行ってきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

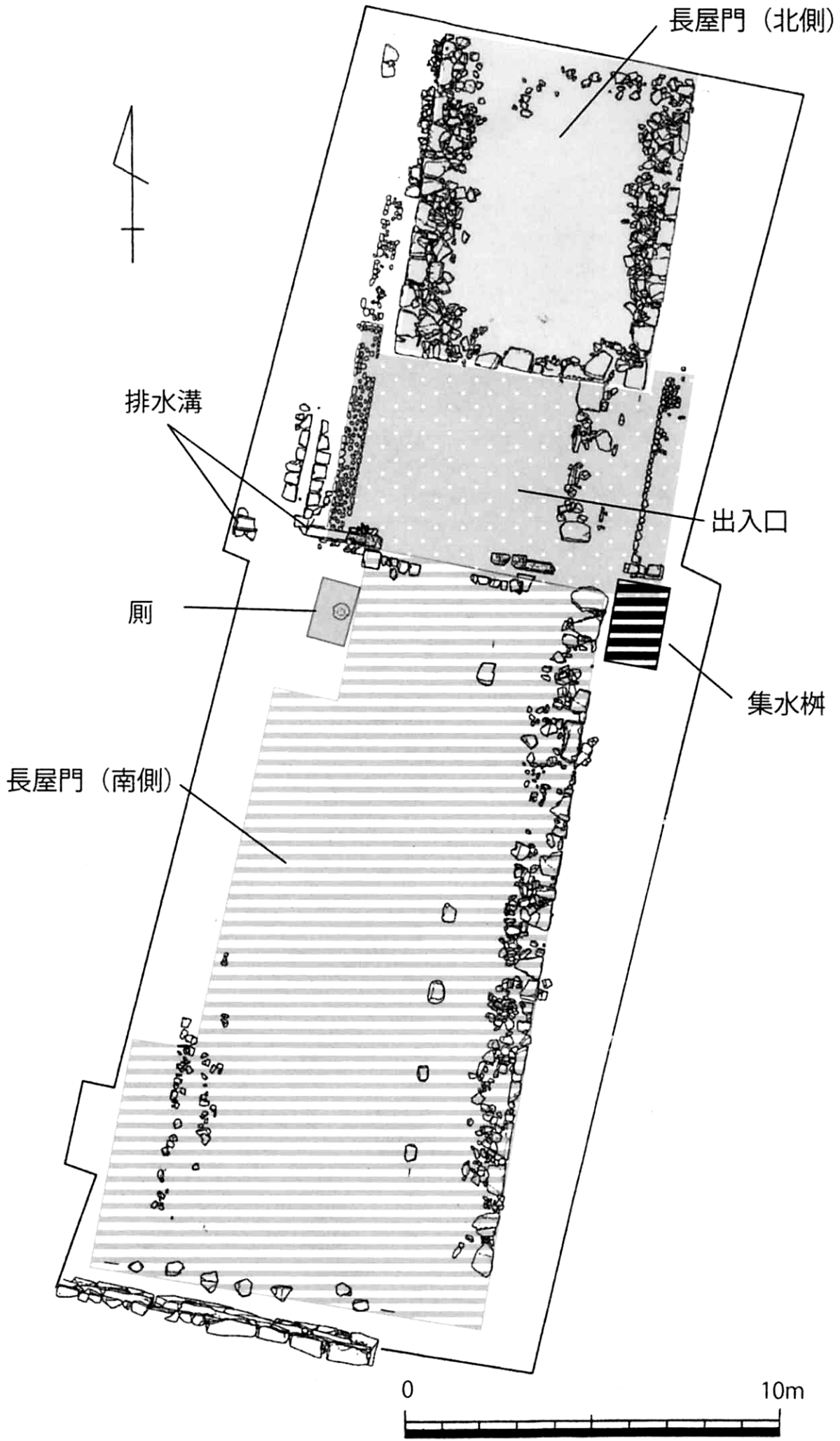
調査成果の概要

今回の調査は、元禄13年（1700）年に作成された『御城内御絵図』という本丸内の建物配置図に記述されている中門（長屋門）の残存状況を確認することが主な目的でした（トレンチ1）。この他、絵図に記されていない建物があるのかないか確認するため、試し掘りの調査区を2カ所（トレンチ2・3）設定して発掘を進めました。

調査の結果、トレンチ1から、『御城内御絵図』に記されている中門（長屋門）を確認できました。特に、出入口に当たるところには、漆喰を混ぜた土で堅くたたき締めて地面を作っていることがわかりました。また、中門に付属する排水溝や集水桝、厠（トイレ）などが残っていることを確認できました。トレンチ2、トレンチ3では、建物の明確な痕跡は確認できませんでした。けれども、さらに掘り下げを進めていくと下層から建物の基礎として使われたと考えられる礎石列を確認できました。これらの礎石列は前期池田時代の頃（江戸時代の初め頃）のものと考えられます。



2009年度調査区配置図

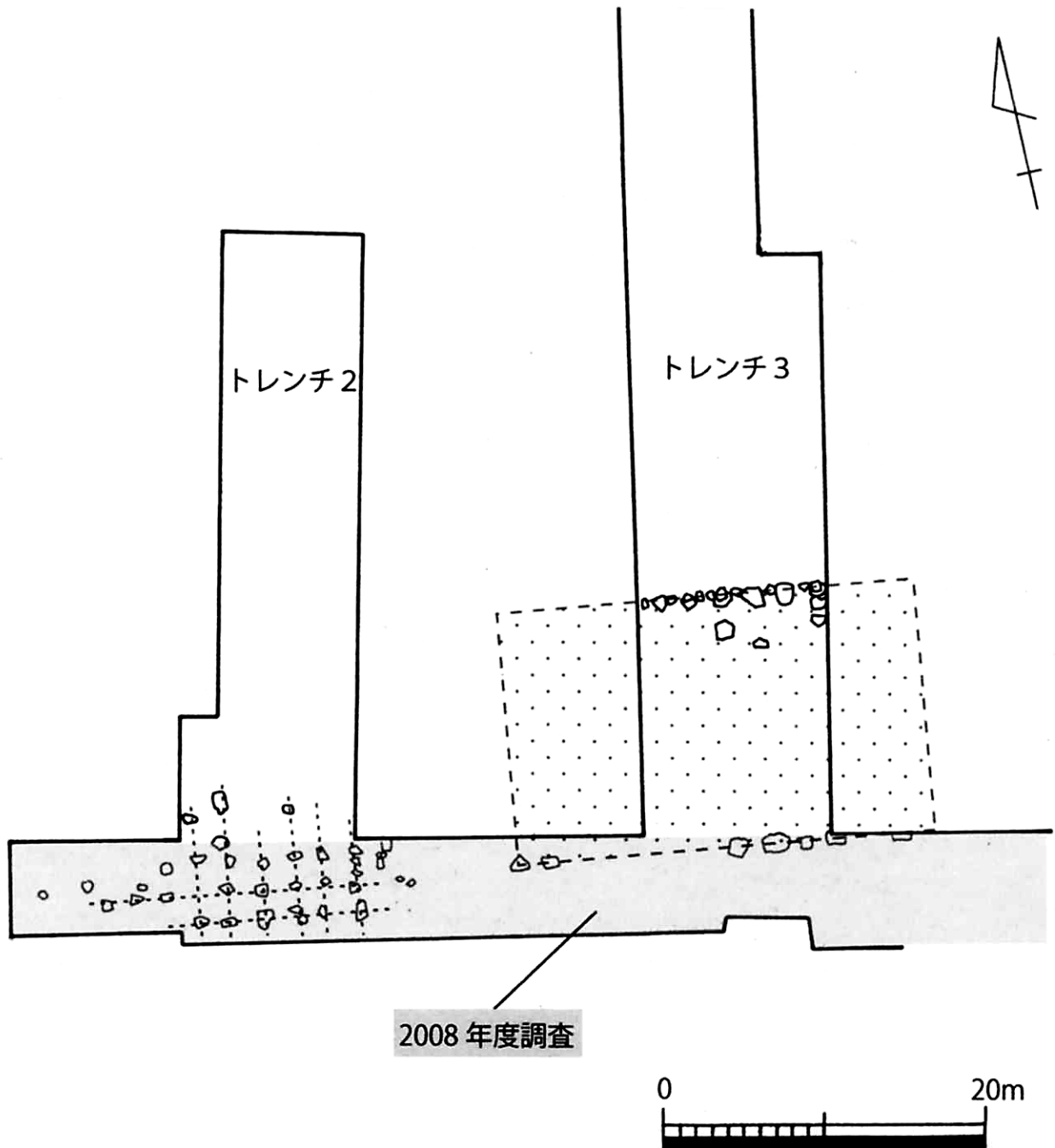


中門 (長屋門) 平面図 (S=1/200)

下層の生活面（礎石列）

トレンチ2・3で見つかりました。中門（長屋門）が作られた地面から1mほど掘り下げたところ、規則的に並ぶ礎石が確認されました。これら下層の遺構は出土した陶磁器や瓦からみて17世紀初期の前期池田時代（江戸時代の初め頃）に存在していたものと考えられます。

これらの礎石列は今年の調査でも確認されており、岡山城の歴史を知る上で重要な発見といえるでしょう。



下層生活面 礎石列出土状況 (S=1/400)